



平成 24 年 3 月 7 日(火)

第 8 回東北風景街道協議会 編

3月7日、第8回東北風景街道協議会が仙台市のエルパーク仙台で行われました。当NWからは能登祐子会長、佐々木貴信准教授、渡辺千明准教授、川口文弘(国交省)の4名が参加しました。

主なプログラムは下記のとおりです。

- 東北風景街道協議会における活動報告
- 各パートナーシップにおける活動の自己分析
- 平成 24 年度の活動計画(案)
- 各パートナーシップからの活動報告及び委員からの指導・助言
- 表彰制度

東北地方整備局の川瀧道路部長及び東北風景街道協議会の藤崎会長からは、昨年3月11日の東日本大震災では甚大なる被害があり、東北風景街道協議会の団体の中にも被災された方、原発の影響で避難されている方、風評被害で苦しんでいる方などへのお見舞いの言葉や、「今後各団体の連携等による復興や活性化に期待している。頑張ってください」との挨拶がありました。

東北風景街道協議会事務局からは、昨年度に引き続き実施された道の駅での「パネル展及びアンケート調査」の結果報告がありました。「のしろ白神の道」に関するアンケート結果では、「訪れたことがある」の回答は昨年度の8番目から5番目へ(全20団体中)アップし、「癒される。新緑の季節にまた行ってみたい」などの意見ありました。

その後、各団体の自己評価結果や、新たに決まった日本風景街道のロゴマークの紹介がありました。このロゴマークは風景街道事業開始時に全国の活動団体にアンケートをして、幾つかのデザイン案の中から選ばれたものです。富士山をモチーフとしたコシノジュンコさんのデザインによるもので、パンフレットや看板、イベント時のTシャツなど、今後の運用・管理方針も示されました。

続いて表彰審査に入り、予めエントリーのために提出していた資料について、各委員からご意見をいただきました。当NWはいつものようにダメもとで、全部門(ビューポイント・景観部門、滞留拠点部門、広報部門、特別部門)にエントリーしていましたが、ビューポイント・景観部門及び広報部門において、見事表彰を受けることができました。



協議会のようす。NWは登録第一号なので席は最前列の左しが定位置です。



能登会長の活動報告は分かりやすく、いつも指定時間内に終わります。川口さん以下、能代河川国道事務所のご協力をいただいた資料も分かりやすいものとなっています。



表彰状授与のようす。NWのほか6団体が受賞しました。



協議会委員ほか関係者全員で記念撮影。



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

間庭洋委員（東北六県商工会議所連合会・常任理事）からは、活動を広げていくために、3月18日から始まる東北観光博覧会への参加登録やHPのリンクをしてはどうかとのご意見をいただきました。また、鈴木紳一委員（河北新報社事業部長）からは、①秋田スギをはじめとする地域資源を生かした景観づくりの徹底ぶりは評価できる②広報にも力を注いでいるのは理解できるが、カウントダウンやキャッチフレーズなど「催事による情報発信（＝事前の広報）」を少し考えてはどうか といったご意見をいただきました。

各パートナーシップからの活動報告では、当NW能登代表は平成23年度の活動内容（会津若松支援活動、木の香る道づくり事業、イベント参加状況等々）について、指定時間3分ピッタリでくまなく報告されました。

各団体はこの報告後、委員からアドバイスや評価をいただくことになるのですが、当NWには東京大学の堀先生から以下のコメントがありました。

- 是非次のステップとして、東北といわず、全国の風景街道のモデル（手本）となることを強く意識しながら活動してほしい
- 自治体との関係の見直し
- これまでの補助金を狙った活動費の獲得は、NWの特徴の一つでそれは良いと思うが、まっとうな活動費の獲得の仕方は、来訪者のほしいサービスを提供した「満足の証」としてお金を落としてもらうこと。そろそろほっとステーション等の交流拠点を活用しながら、商売をきっちりやることを考えた方がよい
- これまでの活動内容を本にまとめる段階にきていると思われる

その後行われた交流会では、のしろまち灯り（冬）で実施した木製コースターによるスタンプラリーや、3月23日開催予定のフォーラムの紹介をさせていただきました。

協議会最初の挨拶でありましたとおり、今年の協議会及び交流会は、東日本大震災の影響のせいか、参加者が昨年より少ない状況でした。今回参加された方の中にも、活動をともしていた方がお亡くなりになったり、原発の影響で避難を余儀なくされている方がいらっしゃいました。

震災から一年、まだまだ復興には時間がかかります。当NWでも継続的に支援可能な取組を引き続き実施し、ほんの少しでも被災地のお力になればと感じさせられる協議会でした。

文：川口 文弘



閉会后、NWの大切な支援者、東京大学の堀繁先生と記念撮影。



閉会後の交流会には、各地の自慢の味が並びました。能代からの品は毎回人気です。1升瓶を2本も持ってきたのに、一つも受賞できなかったのは無念とのユーモアたっぷりのコメントもあり、少ない人数ながらも和やかな会となりました。



NWの登壇は毎回、全員参加。持込の一品やスタンプラリーに使った木製コースターの紹介を行いました。



会津若松の庄司さんと久しぶりにお会いしました。いつまでも震災支援ではなく、平時のつながりとしてモノや人の交流を進めていきたいですね。